

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成15年2月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成15年1月分(12月30日~2月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	15,121	25.41	12.17	↑	12	麻疹	4	0.01	0.05	
2	咽頭結膜熱	39	0.10	0.05	↘	13	流行性耳下腺炎	221	0.59	0.90	↘
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	199	0.53	0.74	↘	14	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.05	
4	感染性胃腸炎	3,099	8.26	8.03	↘	15	流行性角結膜炎	96	0.96	1.06	⇒
5	水痘	630	1.68	2.14	↘	16	急性脳炎	2	0.02	-	
6	手足口病	75	0.20	0.15	↓	17	細菌性髄膜炎	0	-	0.02	
7	伝染性紅斑	34	0.09	0.17	↗	18	無菌性髄膜炎	4	0.04	0.13	
8	突発性発疹	202	0.54	0.59	↘	19	マイコプラズマ肺炎	18	0.17	-	↗
9	百日咳	0	0.00	0.01		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	9	0.02	0.03		21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	7	0.02	0.03		「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇒	⇒
↓	↘	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては、「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症

平成15年1月分（1月1日～1月31日）

疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間発 生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感 染症	57	2.11	1.82		26	メチシリン耐性黄 色ブドウ球菌感染	89	4.24	-	
23	性器ヘルペスウイ ルス感染症	12	0.44	0.52		27	ペニシリン耐性肺 炎球菌感染症	59	2.81	-	
24	尖圭コンジローム	14	0.52	0.37		28	薬剤耐性緑膿菌感 染症	7	0.33	-	
25	淋菌感染症	26	0.96	0.91		「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均 (定点当り)					

インフルエンザ 急増（12月4,823件 1月15,121件）
手足口病 急減（12月172件 1月75件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症，二類感染症，三類感染症 発生なし
全数把握四類感染症 1件発生（急性ウイルス性肝炎（B型） 1件）

3 今冬のインフルエンザの発生状況について

今シーズンは、例年より早くインフルエンザの流行が始まりました。

昨年（12月16日～22日）に、県全体で流行発生注意報の基準値（定点当たり10）を超え、今年（1月6日～12日）には、県全体で流行発生警報の開始基準値（定点当たり30）を超えました。

その後、第3週（1月13日～19日）の定点当たり（県全体）35.22 をピークに、かなり減少してきましたが、第5週（1月27日～2月2日）でも定点当たり17.85 と流行発生警報の継続基準値（定点当たり10）を超えています。当分注意が必要です。

1月分の報告件数は県内で15,121件、全国で602,649件と昨シーズンの県内2,928件、全国122,401件、またかなり流行した3年前の県内11,096件、全国333,929件と比べても大幅に増加しています。

インフルエンザは、鼻汁、せき、のどの痛みなどの普通のかぜでも見られる症状のほかに、39度以上の発熱、頭痛、筋肉痛などの全身の症状が強いのが特徴です。小児や高齢者では重症化することもあるので注意が必要です。次のことに気をつけて予防しましょう。

予防が一番インフルエンザ（厚生労働省の今冬の標語）

日常生活におけるインフルエンザ予防対策

- 帰宅後の手洗い，うがいを励行する。
- 外出の際は，マスクを着用し，人混みを避ける。
- 室内は湿気のある程度保ち，時々室内の換気を行う。
- 体力が低下しないよう，栄養，睡眠を十分にとり，適度な運動をする。

その他の留意事項

- インフルエンザかなと思ったら，安静にして，早めに医療機関を受診する。
- 病院や高齢者が入所している施設では，施設内の入院・入所者に感染させないように，職員や面会者は注意する。
- 乳幼児等は，できるだけ，多数の人が集まる所には連れて行かないようにする。
- 高齢者は発熱，頭痛などの症状があまり出ない場合もあるが，長引くと肺炎など重症になる可能性があるため，家族や周りの人も十分気をつける。
- 解熱剤には，インフルエンザにかかっているときは使用を避けなければならないものがあります。別の病気にかかったときに医療機関で処方された解熱剤の使用，特に家庭に残っているものをやむを得ず使用するにあたっては，処方した医師やかかりつけの医師によく相談してください。